

社会科	5B 寿司博覧会！	
5年B組	～寿司から世界が見える～	田中 いずみ

1 単元について

(1) 単元設定の理由

5年生では今年1年間を通して“ジャパニーズフーズを探せ！”のテーマで社会科の学習を進めてきた。1学期は子どもたちの大好きなメニュー“すきやき”を学習対象にした。材料調べをする中で（野菜・畜産・名産品・ルーツ…）などひとりで学んでいく材料がたくさんあった。また産地と日本の国土をむすびつけたり、輸出入、流通など5年生で学習できる要素が含まれており子どもたちも楽しんで学習をすすめることができた。

また、今年も社会科部では、去年に引き続き“全体学習”につなげるために“ひとり学習”の充実に重点をおいている。私は、ひとり学習を充実させるために“学習対象と子どもたちをどうかかわらせていくか”ということと“楽しく学習できる単元計画”この二つが大切であると思い社会科の学習に取り組んできた。

☆ 学習対象と子どもたちとの関わりについて

3年生での地域学習としての寿司屋さんとの学習の違いを明確に！

自分が今までなにげなく食べていた“すしネタ”のルーツを調べていったら、チリ、タイ、ベトナム、中華人民共和国、モロッコ…等々世界の国々が見えてきた。寿司といえば一番の日本食だと思っていた子どもたちにとって、これは驚きの事実であった。寿司は世界の国々によって支えられていたのである。そんな驚きの中で、子どもたちの疑問をもたせそれをひとり学習で調べた後、全体学習をした。子どもたちの目のつけどころが非常におもしろかった。世界各地からどのようなルートですし屋さんに運ばれるのか？仕入れ値はいったいいくらなのか？魚の飛行機代はいくらか？等々様々な疑問が出された。3年生での寿司屋さんの工夫を学習するのはなく5年生として、流通・世界と日本との輸出入・運輸などを学習させたかった。自分が食べている“寿司”から日本をそして世界を見せたいと願いこの単元を計画した。

☆ 楽しく学習できる単元計画とは・・・

“寿司”で学習計画を自分たちで考えよう！と子どもたちに投げかけた。もちろん1学期の“すきやき”の学習をしているから子どもたちは“産地調べをして疑問を出し、みんなで話し合って最後はポスターを作って学校に貼る”という計画をたてた。それでは1学期と同じである。プラスαがないと2学期の学習にならない。私はそのプラスαを「世界の国々との輸出入」と「流通」にしたいと考えたのである。“もっと自分たちのしたいことを考えてごらん”という投げかけで子どもたちからでてきた案が“寿司博覧会をしたい”“寿司を作りたい”“寿司屋に行きたい”…であった。ということでそれもこれも全部できる単元設定を考えてみた。

(2) 単元目標

- ・ 寿司ネタのルーツを考える中で水産業に携わる人々が自然環境を生かしながら安全な魚を生産したり、水産資源を保護したり、新鮮さを保ちながら輸送しようとしていることをそれぞれの事象と関連づけて考えることができる。
- ・ 自分の食生活を支える農業や水産業について資料を活用しながら、それに従事している人々の工夫や努力、運輸の働き、生産物の分布などを調べ食料生産と自然環境との関わりについて考えることができる。

(3) 学習計画 (全9時間：本時6/9)

・ひとり学習の時間は時数にいません。

第1次

5B すし博覧会を開こう！！

第1時

自分たちで学習計画をたてよう！ ……企画書提出

第2時

寿司について知っていることを発表しよう

興味のあることや疑問を調べよう (ひとり学習)

- ルーツ
- すし言葉
- 日本各地のすし
- 回転すし
- サイドメニュー

第3時

疑問についての調べを発表しよう (全体学習)

5B すし博覧会を開催するために・・・

第4時

みんなで寿司屋に行って寿司を食べてみよう (全体学習)

- ネタ
- シャリ
- 味
- 店の人
- 新鮮さ
- サービス
- 値段
- レシピ

自分の疑問を調べてみよう (ひとり学習)

第5時

自分が調べたことについてみんなで話し会おう (全体学習)

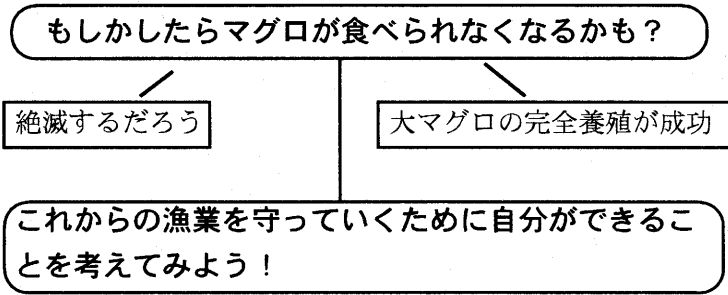
- いくら調べをしていたらサケの栽培漁業について気になってきたよ
- 寿司ネタって、外国から輸入しているものがいいに多いんだね。
- 値段を安くするために様々な工夫をしているよ。
- 北海道からたった一日で届くなんて！何で運ぶのかな。
- 同じアオリイカでも日本でとれたイカの方が値段が安いのはどうしてだろう？

第6時 (本時)

〇〇君の考え“今後、寿司の値段は高くなっていきます”について話し合ってみよう！ (全体学習)

- 漁獲高の減少
- 養殖漁業で安心
- 輸入中心

並行して(そらごうの学習) トーヨー精米機見学・寿司を食べようツアー



第7・8・9時

(全体学習)

2 単元の考察

(1) 自分が社会科の学習で大切にしたいこと～単元計画の大切さ～

こんな子に育てたい！

- ・好奇心をもって自分の身の回りの社会を見ようとする子に！
- ・社会的事象と自分をつなげて考えられる子に！
- ・見えない部分を見ようとする子に！

～楽しい！のエッセンスを～

- ・調べること
 - ・話し合うこと
 - ・食べること
 - ・出かけること
- この4つの活動を単元計画に入れる

私は「5年生を担当したときは“寿司”を学習対象として社会科の授業をしたい。世界と日本に目を向けた学習を展開したい」という思いをずっと持っていた。だから4月に「研究会は、寿司で流通・運輸をしよう」と考え、それ以来、自分の頭の中で少しずつ単元計画をあたためてきたのである。しかし子どもたちが中心に考えた学習でないと意味がないし、子どもたちの意欲にも反映するという思いがあった。

10月になり、まず子どもたちに自分たちの学習だから単元計画を自分たちで考えるようにと話した。その時に、私から子どもたちに出した注文は2つ

☆ 楽しい活動と学習をミックスさせること！

☆ 自分ひとりでの学習がしっかりできること！

であった。しかし、実際、子どもたちだけですべて単元計画を考えるというのは難しい。今回は子どもたちと私と一緒に学習の流れを考えていった。

(2) 互いのまなざしが共鳴する実際の姿は

本時は課題に対して、今まで自分がひとりで調べ、追究してきたことを根拠としての話し合いをした。課題は“これから寿司の値段は高くなると思います。みんなはどう思いますか？”というJ君の考えについての話し合いをした。資料をもとに“漁獲量の減少で、すしネタの魚が高くなる”という意見や“マグロはこのままでは絶滅してしまうのではないか”という意見などが出された。特にマグロについては子どもたちの興味関心も高く“マグロ絶滅に危機感をつのらせる子と完全養殖がもっと一般的になったら今よりもっとマグロが安く食べられるという意見の子と子どもたちの中でも大きく意見が二つに分かれた。この二つは全く相反する意見であるが“安く寿司を食べたい”というのはどの子も同じである。私はこの授業の落とし所は「じゃみんなは安くお寿司を食べたいの？それとも高いお寿司を食べたいのかな？」という発問だと思っていた。実際この発問によって子どもたちは“安い寿司を

食べるためにはどうしたらいいのか？”ということに目を向け考え始めたのである。これがクラス全員のまなざしを共鳴させる場面であったと思っている。子どもたちは、友達の考えと自分の考えを比較したり共有したりする中で、自分の意見をしっかりと確立していったように思う。

この学習をすることで私は子どもたちに“自分の生活を振り返り食卓をもう一度見つめる中で、世界を感じて欲しい。そして、世界の食料生産に目を向け自分たちの未来の食卓を予想することで、今後の食料事情に目を向けて欲しい。そのためにこれから自分たちが何をしなければならぬのかを考えて欲しい”という願いを持っていた。それに対して子どもたちは、自分の調べ学習をもとに真剣に話し合っていた。もしかしたらマグロが食べられなくなってしまうかも知れないという危機感を募らせながらも、大マグロの完全養殖に成功した「熊井先生」の偉業に希望を持ちながら、今後の漁業の行く末に自分なりの思いを持ち意見を出し合った子どもたちであった。ひとりひとりの小さな疑問が追求となりクラス全体のまなざしの共鳴へと少しずつふくらんでいったように思う。

3 成果と課題

“5B寿司博覧会”の学習をして本当に良かったと思っている。理由は子どもたちも私も一緒になって楽しく学習ができたからである。その中でも、クラスみんなで寿司屋に行きお寿司を食べ、疑問を持ち、調べ、解決していこうとしたことが特に印象に残っている。

また、本単元では、ひとり学習の時間をわりあい十分にとったつもりである。おおげさに言えば、10月6日にこの単元にはいってから約三週間、毎日、子どもたちは自分の調べをずっと続けてきたのである。そんな子どもたちを見ていて、変化してきたことは“調べる中身が少しずつ変わってきたこと”である。**イクラの流通**を調べていくうちに、**サケのこと⇒養殖漁業⇒栽培漁業⇒水産業の今後**…へと追究が変化してくる。こういう子がクラスの中で何人かでてくると、ちょっとした発言にも自分の調べと関連づけて自分の考えが言えるようになってくるのである。これがこの単元での成果の一つではないかと考えている。

しかし、子どもたちを見ていて気になることもでてきた。それは自分の考えの根拠として**うまく資料を活用できていない**ということであった。これは4月から自分が子どもたちにきちんと細かく資料の見方を教えていないという反省があった。そこでこの単元では“**資料を読み取る**”という当たり前のことも大切にしたいと考えた。水産業や輸出入に関係した資料を何枚か子どもたちに配り「この資料からわかること」をできるだけたくさん書かせ、自分の今調べていることに使えそうだという資料にはシールを貼って意識づけをしたがまだまだ、資料をしっかりと読み取るまでには至っていない。このことを今後の課題として子どもたちと一緒に地道に学習を積み重ねていきたいと思っている。

最後にUさんの作文を載せてみる。この子のような子をもっともっと増やしていくことが今後の自分の課題だと思っている。

私にとって社会とはひとつの事からいろいろな事が分かるスグレものです。5年生の社会は何より見学が多くてすごくためになります。全然知らなかったことが分かった時はすごくうれしいです。

今マグロの運び方について…(中略)…社会って発見と共にハテナもあるからおもしろい。発見してもう終わりになるのはもったいない。ハテナがあるからすごくおもしろく感じる。わたしはこういう見方をしています。